



第13号
酪農学園発行
北海道江別市西野582
発行者 編集委員会
印刷所 北海道リハビリ



あけまして おめでとうございます

平素の御厚情に感謝申し上げ
一九七四年の年頭に際し一言御
挨拶を申し上げます。

七〇年代は国際的に激動の時
代と云われ、ドルショック以来
相次いで世界の動揺が続いてい
るが、昨年末に突如として起っ
たアラブの石油問題で各国が嵐
の渦中に巻き込まれ、本年は大
変な年を迎える。而し静かに考
えれば、こうした事態は中東問
題の有無に係わらず起るは起る
問題で、寧ろ早く来た事が人類
永遠の幸福の為に却って良か
ったとさえ言える。それはエネ
ルギーをはじめ、資源は有限で
あり、これを無制限に食い荒し
ては、その枯渇を促進し、公害
を激増して人類の危機を早める
からである。

私は過去三年以来、資源を持
たない我が国の繁栄は既に限界
に達し、今後の経済成長は極め

国と消費者に対する試練と考
えたい。

従って今後の産業は無限に反
復して使えるエネルギーが開発
されない限り、省エネルギー型
に変革を余儀なくされるであろ
うし、また同時に資源節約型に
も転換しなければならぬ。而
も世界の人口は今世紀末には倍
加すると推定されているから、
愈々大変な時代を迎える事にな
る。

その必然の結果として今後の
産業は、否応なく量的生産を節
減して質的生産に急転換を迫ら
れ、国民の生活を維持するため
に欠かせない必需物資を優先的
に生産する構造に変わる時代を
迎える。私見であるが、我が国
の物量生産は二〇年前の生活水
準程度まで引き下げざるを得な
くなるであろう。それは最近の
生産と消費の現状を見ると余り

と消え去る苦悩の色が深まりつ
つある。

而しこうした変動は我が国は
かりでなく、先進工業国が何れ
も直面している問題であって、
如何にしてこの難局を切り抜け
るか夫々の国民の英知と努力
に俟つ以外にないが最も重要な
ことは国民の覚悟であろう。

敗戦後の苦難に耐えたわが国
民はこの艱難を克服し得るもの
と信ずるがそれには耐乏生活が
必要である。石油不足の影響は
忽ち物の生産と輸送に打撃を与
え、とくに大量の原材料を輸入
に依存している国ほど深刻であ
る。それが経済上の打撃のみで
あればまだしも、とくに大量の
食糧を輸入に依存する国におい
ては、輸送費が高騰するほか輸
送の渋滞も激しくなり、国民の
生命は危険にさらされ、国の治
安は保てなくなる。

ある。
食糧と人口問題こそ今世紀末
に向って解決を要する世界最大
の課題であろう。一部の論者の
間には低開発国に対する技術援
助によって食糧増産を図れば容
易に解決されるかの如き卓上論
を平気でする者もいるが、実情
を知らぬ空論も甚だしい。それ
らの国々の農業生産の基盤整備
だけでも生易しいものでなく莫
大な経費と年数を要し、而も気
候、風土、疫病との斗いの外、
民族性、教育訓練、部族間の問
題更に政治外交経済上の複雑な
問題が絡み合って容易なものだ
はない。

勿論これも当然為さねばなら
んが、五〇年ないし一〇〇年計
画を進める覚悟が先決である。
而もその結果は、それら民族自
身の食生活内容を向上させるだ
けでも二・三〇年を要する点を



激変の年を迎え 年頭のうあいさつ

理事長
佐藤 貢

て難しく、とくに最近のアメ
リカの事例から見ても、エネルギー
危機がわが国にもひしひしと迫
りつつある事を強く肌身に感
じ、速やかに資源節約型に産業
構造をあらためなければ、遠か
らずわが国の産業は莫大な打撃
を被るに至る事を各種機関紙
や講演を通じて論じてきた。昨
年六月のある全国大会の講演で
は、この危機は三〇五年以内に
は来るであろうと断言し、も
し、この予言が当たれば幸
であるとして、平然と物を
浪費して省みないわが国民に資
源節約の急務を訴えた。

最近におけるわが国民の物の
乱費は誠に目に余るものがある。
この点から今回のアラブ石
油問題は、人類に対する天の一
大警告であり、果しない人間の
物的欲望を充たすために、天与
の資源を浪費し続ける工業発展

にも無駄が多く、体裁作りの容
器や包装等、捨てられる物の生
産が激増し、而も殆んど再製利
用されないのがわが国の現状で
ある。

金にあかして物を使い捨てた
時代は既に過ぎ去り、愈々物の
大切な時代が来た。資源の豊か
な欧米諸国の中でも廃物のリサ
イクリングが実施されている。
金属は元より、硝子、プラスチ
ック、紙屑、家庭の廃棄物から
家畜排泄物にいたるまで再製利
用が進んでいる。資源なきわが
国の現状は誠に恥かしい限りで
ある。今後ともこの儘では国民
も行き詰る点に堪えぬ。

このリサイクリングの実施を早
急に推進しなければならぬ。
結局今後の商業には大変動
が起り、業種によっては廃転業
が続出し、失業者増加の可能性
が強く、過去の繁栄が一瞬の夢

国民の生活で衣と住に就ては
或る程度の耐乏生活が可能であ
るが食生活はそうはいかない。
食糧の海外依存は天候異変や
国際情勢の変化に左右される危
険が多い点から、主要食糧にお
いては八割、総合食糧でもでき
れば七割程度の自給率を維持す
べきである事を終始吾々は主張
して来た。而し最近、わが国の
経済発展と国際的な資本と貿易
自由化の波に押されて、為政者
学識者、評論家、消費者団体の
中から、食糧自給度の維持に対
する強い反対と批判が高まりつ
つあった事は慨嘆に堪えない。

而し今や石油問題を契機とし
て斯かる安易な海外依存が如何
に夢でない夢であり短見であるか
を強く認識されたと信ずる。而
もエネルギーを始め資源は年々
枯渇する一方であり、世界人口
は逆に三〇年後に倍加の傾向に

計算に入れておく必要があるか
ら、他国への供給はほど遠い。
勿論開発途上国中には、より短
期間に開発効果を上げ得る国
もあるが、その食糧は先ず飢餓
寸前にある民族の為に供給を要
するし、今後のエネルギー不足
から極めてコスト高になる事は
免がれない。

斯る状況から推論すれば、資
源のないわが国の食糧自給度向
上は、国民の生命を保障する為
の至上命令と謂わざるを得な
い。今後の産業経済民生の重点
は既に変わっている。工業と貿易
に偏した立国政策は大きく変革
され、愈々農業重視の時代が来
たのである。都市生活に魅かれ
他産業の資金に氣を奪われて農
業を離れた若人達も、再度農村
に戻り食糧生産に従事しなければ
日本の食糧自給は危うくなる
事を憂えるものである。

而しわが国の農業の在り方は
旧体依然であってほならない。
生産性の向上を目指して、思い
切った構造改善を進めると同時
に、化学肥料に偏した最近の施
肥の弊風から脱却し、各種家畜
を投入した混同農業及び酪農経
営によって肥料と飼料の自給度
を増進し、健全で肥沃な土壌を
造成して蛋白質食糧の増産を図
り、永遠に繁栄する農業の建設
が要である。この為には国の
確乎たる農政の樹立も必要であ
るが、農民及び農業団体の真剣
な努力がなくては達成されな
い。

最近のわが国の農業は他産業
の発展と自由化の波に押しまく
られ、前途に希望を失なうて離
農者が続出する傾向が顕著とな
り、極めて憂慮すべき現象を呈
していたが、今や世界は一変し
愈々「農を以て国本とする」時
代に入った。この点を農業関係
者一同と共に喜ばしく思うも
ので、農業に誇りを持つ時が来
たのである。

次にかねて予告申し上げてい
た北海道とカナダのアルバータ
州との酪農交流計画に就ては愈
々今春を期して実施される事に
なった。

北海道では既に交流協会を設
立して各種委員会を設け、実施
に関する具体的検討を加え、教
授・研究者二名、学生四名、酪
農家一〇名の派遣と受入れに就
てカナダ側と密接な連絡をと
り、萬遺憾のないよう取り進め
ている。
又近くその人選を行なう予定
になっているが、その事務局を
酪農学園内に置きその推進を計
っている次第で、その成果を挙
げるには皆様方の心からの御協
力と御支援に俟たなければなら
ません。この点宜敷く御願申し
上げます。
激動時代の年頭に際し各位が
新しい自信と希望に燃えて健斗
せられ、本年を意義ある良い年
とされますよう祈念申し上げ、
所見の一端を述べて年頭の御挨拶
と致します。



園長 黒沢 西蔵

健土と健民

いつしかに
九十の峠を
越しにけり
神の恵みと
人のなさにけり

これは私が昭和四十九年の元旦に口ずさんだ言葉である。何時の間にか九〇才の馬令を重ねる老翁になった。私が酪農に志したのは二〇歳の時であったから約七〇年間酪農と共に生きてきた。今後何年生きるのか判らんが、生の有る限り酪農畜産に全身全霊を捧げたいと思うのであるし又私はこれを天の与え給う使命と信じて居る。この七〇年間の食生活体験を通じて、新春の贈り物として健土健民論を書いた次第である。私の健土健民論は数十年前間提唱してきたいわば古ぼけた「コケ」の生いたものであるが、私は死ぬまでこれを叫び続ける積りであるし、日本列島が健土健民の実現されるまでは、誰かが私の意志を継いで健土健民論をさげ続けられるものと確信するのである。

さて政治行政の目的は何であるか。又学問の目的にしても各産業の目的にしても又文化にしてもその目指す所は何であるか。私は健土健民の一言に尽きるところである。

健康と云う意味ですが、私は三つあると思うのです。先ず第一は心の健康です。第二は身体健康です。第三は各自の従事する仕事の健康です。則ち健康、健康、健康です。私の健康論は頗る強い意味を含むのであります。

先ず健土から申し上げましょう。この大地は人類を初め生きとし生くるものの総ての動植物の母体であって、この国土、日本ならば日本国土即ち世界の国土、地球であります。これを健康なものにすることが人間の最大最高の勤めであると思えます。そこで大地の生命力則ちこの土地の生命力が充実してこそ健康な土地と云えるのであります。土地の生命力があらばこそ土地から生産した食糧に依りて人間は生命を保つことが出来るのであります。

然らば土地の生命力とは何でありましょうか、それは土地の中には二千万種以上の微生物、バクテリア、即ち土壌菌が棲息して居るのであります。この土壌菌が昼夜の別なく地中にて神秘的な活動をつづけて、農作物の必要とする肥料即ち窒素、リンサン、加里等を作物の細根に送り込み吸収せしむる媒体の役目を営むのであります。そこで作物は生熟して人間の生命を維持する食糧が生産するのであります。先ずこの原理を知らねばなりません。

この土地が生きて居ると云うことはこの無数の土壌菌が棲息することを意味するのであります。土壌菌の棲息しない土壌は生命力の無い土壌であります。従って豊饒なる土地、肥沃なる土地とは土壌菌の沢山棲息する土地を云うのであって、不良なる土地やせた土地とは土壌菌の少ない土地の別名であります。こう考えればどうすれば土壌菌が豊富無限に増殖するかと云えば、土壌菌も生物ですから飼料が必要で、その飼料は有機質肥料でなければ土壌菌の飼料にはなりません。即ち堆肥とか厩肥の如き有機質肥料を施せば土壌菌は無限に増殖致しますが、無機質肥料である化学肥料では土壌菌のたべ物にはならない、のみならず却て土壌菌は死滅し減少するのであります。従

って豊饒肥沃なる農地を作るには化学肥料専用では駄目です。是非共堆肥や家畜尿を充分に施肥し、作物の吸収する肥料分に不足する分量を化学肥料で補給するのではありません、生命力のある農作物は出来ないものであります。

以上申し上げたことが、永久無限に続く農業であります。欧米を初め真の農業国はこの原理に従って農業を営んで居ります。「家畜無ければ農業無し」と云う金言は、ここから生れたのであります。即ち家畜無ければ優良なる堆肥は生産しない、堆肥や尿が無ければ土壌菌は死滅し減少する、そこで農業と家畜は絶対不可分のものであるから、家畜無ければ農業無しと云う金言が尊重され厳守されているのである。

ところでわが国の農業の在り方を見るに大部分の農民は化学肥料と農薬さえあれば農業はやる、と誤信している。従って日本の農民の使用する化学肥料は、欧米各国に比し一〇アールに対し五倍から七倍、甚だしきは一〇倍の多量の化学肥料を施用している、恐るべき現状である。若しも無反省でこのまま進めば、日本の農地は数十年後に半死の農地となって食糧も減少するのみでなく、食糧その物も生命力のないものになって日本国民の健康生命にも恐るべき結果を来すことは火を見るより明かである。私は数十年前これ

を力説してきたのは、日本の同胞を愛し、日本の将来を憂うからである。

眼を転じて世界の大事勢を觀するに、人口は今や三七億と称せられ年々増加の一途をたどっている。食糧の危機は必然なりと識者は断言している。狭い国土の日本は、農地を尊重し一寸の農地をも大切に扱い、堆肥を充分に施し六〇〇程度まで深耕し、世界一の豊饒肥沃な農地を造成して農業技術を益々向上せしめ、機械力を縦横に駆使し真の畜産機械化農業を完成せねばならないと信ずるものである。

以上申し上げた私の理想信念を実現するには農業経営は、協同力を充分に發揮し、農機具にしても耕作にしても協同の美点長所を活用して労働力の能率化を図らねばならぬと思うのである。その余力を似て乳牛なり肉牛なり鶏、豚を飼育し、乳肉卵を多産して近き将来に予想される一億二千万の同胞に栄養食品を充分に供給して日本国民の体格健康の向上を図るべきではあるまいか、畜産を盛んにすることにより健康豊饒肥沃なる農地を造成しつつ一面には牛乳、肉、卵を増産して国民の健康を向上せしむるのである。これが私の言う健土健民論の概要であると同時に畜産酪農こそ真に名誉ある聖業ではあるまいかと信ずる。

計報

酪農学園大学教授
黒沢 亮助氏
享年 八二才



旧臘一二月一三日午後四時、心筋梗塞のため御逝去されました。故黒沢亮助先生は、昭和三五年四月本学の教授になられ高い職見と多年に亘る豊富な経験を生じて獣医学科の創設に努力され、また昭和三九年四月から四二年三月まで副学長として大学、短大の運営に当り、その発展に寄与された功績は誠に顕著なものであり、学園一同心から感謝して御冥福を祈ります。



一五周年の 記念事業を終えて

三愛女子高等学校

昨年の十二月一日(土)に記念式典を挙行し、一年半にわたる準備と事業を終え、新しい周期への始動が一段落み出されました。

四七年の四月に伊藤幸太郎校長が就任し、新しい学校づくりの一環として、「一五年史」の編集と「三愛の教育」の発行を指示され、内容、予算等の協力を、同窓会に要請し、学

集により、立派な記念史として発行することになり、感無量であります。

「一五年史」は約一年間の編集により、立派な記念史として発行することになり、感無量であります。

「一五年史」は約一年間の編集により、立派な記念史として発行することになり、感無量であります。

三愛女子高校 同窓生の皆様へ

三愛女子高校は本年創立一五周年を迎えましたので、これを機会に「同窓生名簿」の全面改訂の作業を進めております。全員の左記事項をハガキで教えてください。事務局長までお知らせ下さい。よろしくお願いいたします。

①氏名(旧姓) ②現住所(勤務先) ③郵便番号 ④電話番号 ⑤卒業期(最終学年担任名) ⑥近況(同期の方で分る方の近況も) 宛先 〒〇六九〇一
北海道江別市西野幌五三四
三愛女子高校内同窓会事務局
(電話〇一一三八三三二二)

なお、本校では去る十二月一日に創立一五周年記念式典が行なわれ、記念誌「三愛女子高校一五年史」(B5、一三〇P)が発刊されましたので、希望者は、事務局まで申出下さい。
実費五百円(含送料)です。

次の方々には消息不明にて名簿整理に困難しております。現住所と近況御存知の方は事務局までお教え下さい。

一期生

水野啓、岡本洋子、高橋サチ子、間馬成子、三浦節子、菅野昭子、横山すみ子、橋井郁子、伊藤美恵子、吉田篤子、滝田涼子、今井笑子、河野律子、上田良子

二期生
岡良恵、福沢哲子、谷口美津子、池田雅恵、亀村栄子、伊東洋子、鈴木泰子、石橋洋子、勝田一江、黒田明子、松原敏子、田口裕子、宮本和枝、茂目幸子、高橋洋子、佐藤恵子、藤塚和枝、青山京子、神原喜美子、三宅節子、稲荷一枝、石川富子、磯角洋子、宮川弘子、中橋恵子、伊瀬修子、高橋富士枝、山照子、波田理美子、八重樫克子、館田道子、伊丹美智子、佐藤洋子、加藤聡枝

三期生
原田玲子、飯塚征子、手塚正子、山口淳子、山口優子、石山康子、小本富子、白鳥道子、河合美枝、武田和子

四期生
三上幸子、作田久美子、林扶美代、羽沢和子、松永妙子、室律子

五期生
小路寿子、中村慎子、小原京子、吉本愛子、花沢利江、朝田和子、安田富美枝、松島陽子、堀孝子

にされると同時に、今後の課題を提起され、一五年を一つの原点にしたいと更に考えさせられた。

地域の要請と子弟を教育する親の願いを考慮するとき、本校教育の重要性を再確認せざるを得ない。益々期待される教育を展開しなければならぬし、キリスト教主義教育がどんなものか、広い理解と信頼を得るために、憶せず前進したいと考えます。そして真に理解を得たり、信頼されるときは、互に甘い関係に陥ちることではなく、人間として生きる真理に対して敬虔であり、その真理にそわなないものには勇気をもって対決する教育でなければならぬと考える。知識を生かす人間の育成こそ急務であると考えます。

山根房子、川合麗子、鎌田詔子、杉本朝子、小山悦子、高田雅衣、宮崎薫、岡本章子、星野和子、旭良子、三上文子、今野史子、新田恭子、斎藤順子、東憲子、北山多恵子、浅野二美子、和田照子、新井田輝子、佐伯弘子、友成美恵子、飯村寿美子、大橋美代子、三浦恵子、奥伊久子、梅津恵子、岡谷紀子、近藤真由美、岡本順子、前田智恵子、伊藤つねみ

七期生
杉田厚子、館越都美、柳原時子、柏原あや子、別役相千代、田畑三枝子、大石一美、諸橋厚子、小池真理子、鈴木充子、中村愛子、佐々木喜子

八期生
舟津孝子、都築礼子、大竹時子、舞城和子、柿畑友子、米重愛子、空知八重子、入倉真由美、島田憲子、小林憲子、久保文子、杉野順子、佐藤幸子、伊原啓子、藤原順子、阿部マユミ、佐藤正代、妹尾美紀子、松本教子、樋口り子

九期生
広川純子、工藤ひとみ、児玉祐子、山田ゆう子、軽部真弓、野城昭子、佐藤和枝、岸田淑子、吉田明代、篠塚真子、岩田武津子、佐々木久美子

十期生
佐藤美恵、山内万里子、白幡恵子、高安緑、北沢千津子、羽田祥子、白石恵理子、水野ひろみ、姫野久美子、清水美紀、岩間三枝子、真鍋初美、越路裕子、小嶋良子、中村あみ子、小針三枝子、山田滋子、井手弘美、山根重代、津川範子、近藤好子、加藤陽子、金沢通子、大塚ちづ子

十一期生
金子緑、都築桂子、宇野野則子、久保田玲子、和田美子、三沢幸子、高橋小夜子、伊吹せつ子、曾屋加代子、佐々木緑、金子紀子、佐々木和恵、斎藤道子、斎藤洋子、二木幸子

十二期生
林下啓子、知野紀代子、岩崎晶子、山本文子、和田香代子、芳賀すさ子、直江登志子、山本道代、河内美幸、山口弘子、直江美智子、新井田紀子、橋本真理子、佐藤昌子、山本潔子、浜本ひな子

山
烟
勝
美

「一期一会」とは一生に一度の出会いということ意味する言葉に他なりません。私たちは街の中で、職場で、あるいは旅の途中でいろいろな人に出会います。しかし、それらの人をいつも行きずりの人、無関係な人として私たちの目はとらえていません。私たちが出会うその人が、自分にとってかけがえのない関わりのある人、そのように考えることに通りすぎてしまうのが常でしょう。けれども、出会いということは、あるところである人に出会ったという簡単なことではありません。それは人が人を見出したということ、人間同志の具体的な関係が形づくられるということなのです。ですからその人がどのように人を見出すか、どんな出会いをするかということは、その人の生涯に大きな影響を与えずにはすまないことなのです。「かけがえのない出会いを大切にしよう」

どんな苦勞をしてもいいけれど、
 れた農民を救わなければならな
 いと決心の臍を固めた」と語っ
 ています。彼はその後、災害地

の源流です。彼らが流れて来たの
 っていた時、岸から声をかけた
 人があります。おそらく仕事に
 夢中になっていたでしようか

ちもパンのかげに人間をかくしてしまい、食べることに追われて人間そのものを見失ってはい

つのお会い、それは遠い昔の出来事として終ってしまうものではないありません。聖書が伝えるこ

こと。即ち酪農家は酪農業に
なくとも二年以上従事した者
且つ次の経験を有する者であ

A 擠乳

۱۱۲۹

し且つ体験せしめる

め、一年以上酪農に従

事した者で次の経験も
有する青年の相互交遊

(4) 繁殖 二、管理
交流期間は夫々六

カ月以上一年以内とする。但し酪農青年は夏

冬の期間を組み合わせるものとする。

(5) 交流経費の負担
イ、研究教育者の経費

は夫々の所屬する教育機関で助成すること。

として自己負担とする
ハ、酪農青年の経費は

原則として自己負担とするが、滞在期間中の

生活費は実習労働によ
ってまかなうものとす

る。

(委員会)

第五条 本協会に委員会を設け、派遣者の選考並びに受入について協議決定する。

る。

第六條 本協会の趣旨に賛同する団体及び個人をもつ

第七条 本協会の会費は次の通
て会員とする。

りとする。
団体費

年額一口一万円以上
個人会費

（役員） 年額一〇一、千円以上

理事 一五名（会長

名、副会長三名、常任

理事一名を含む）
監事 二名

（役員の選任）
第九條 理事及び監事は総会において選任し、会長、副会長及び常任理事は理事の互選とする。

（役員の仕事）
第一〇條 (1) 会長は本協会を代表し、会務を総理し、総会並びに会議を招集してその議長となる。
(2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
(3) 常務理事は会長及び副会長を補佐し、本協会の業務を処理する。
(4) 監事は本協会の業務及び財産に關し監査を行なう。

（役員の任期）
第一一條 本協会役員の任期は三年とする。但し再任を妨げない。

（名誉会長顧問、相談役等）
第一二條 本協会に名誉会長顧問、相談役等と置くことが出来る。

（事務局及び職員）
第一三條 本協会に事務局を設け局長及び職員を置く。

（總會）
第一四條 本協会の定期總會は毎年五月中に開催する。

第一五條 次に掲げる事項は協会の議決を得なければならぬ。
一、会則の変更
二、事業計画
三、収支予算及び決算
四、その他重要事項

（資産及び會計）
第一六條 本協会の資産は次に掲げるものによつて構成される。
一、会費
二、寄附金

第一七條 本協会の會計年度は毎年四月一日より翌年三月三十一日迄とする。

（その他）

第一八條 この会則に定めない事項については会長が別に定める。

四八、四九年度事業計画

一、交流計画による派遣者の選考
(一) 研究者及び教育者の選考
酪農に關係ある研究者、及び教育者のうちより二名以内の適格者を選定し、アルバータ大学と交流を開始する。
(二) 学生の選考
酪農に關係ある、大学の在校生及び卒業生、又は酪農に關係する者のうちより四名以内の適格者を選定し、アルバータ大学と交流を開始する。
(三) 酪農家及び酪農技術者の選考
酪農家及び酪農技術者のうちより一〇名以内の適格者を選定しアルバータ州酪農家と交流を開始する。

二、選考委員会の設置
上記の派遣者を選考するため各選考委員会を設け派遣者募集要項、選考基準の設定並びに人選を行なう。

三、交流に伴う受入れ体制の整備
(一) 企画委員会の設置
企画委員会を設け交流計画に基き派遣されてくるカナダ人の受入研究、教育機関及び酪農家の選定に關する基本計画をたて円滑なる交流を図る。
(二) 受入委員会の設置
受入れに關する各委員会を設け基本要項の設定並びに受入場所及び責任者の選定を行なう。
(三) 受入講習委員会の設置
受入講習委員会を設け、派遣されてくるカナダ人に対し語学及び日本に於ける生活指導のための講習の場所、講師の選定、及び講習に關する要項を定める。
(四) 交流実施状況把握の爲の情報の蒐集
受入責任者から交流者の健康状態、学習、作業等に關する総合的月報を蒐集し実施状況の把握に努める。
(五) 交流計画の円滑なる実施の爲の苦情処理
受入責任者と交流者との間に

苦情が生じた場合は、夫々の受入委員会に施てその実情を調査し対策を講ずる。

三、アルバータ州との連絡及び情報の交換
交流計画の実施に關しアルバータ州の交流協会に密接なる連絡を保ち交流に關する情報交換の実施に努める。

四、交流に關する情報の提供
会員に対し交流事業に關する情報の提供を行なう。

五、本協会の事業を継続発展させる爲の財源の確立
この交流事業を永續させるには將來の爲に基本金の造成を計る必要がある、これを寄附金に仰ぐものとする。

収入の部		支出の部	
会費	1,200	派遣者及び教育者の選考費	100
寄附金	5,000	研究者及び教育者の選考費	400
公共助成金	1,000	学生選考費	300
計	7,200	酪農家及び酪農技術者の選考費	200
		交流に伴う受入れ体制の整備費	300
		その他	5,900
		計	7,200

昭和四八年度派遣時期
昭和四九年三月下旬
申込時期
昭和四九年二月二〇日

編集後記
日本経済のモロさを露呈して新年を迎えた今年は、さき行きに極めて厳しいものが感じられる、安易な外国依存には深く反省すべきである。
食糧についても総需要量の約四〇%を海外に依存している現状から速かに脱する政策が望まれるが、理事長、園長の年頭の御挨拶のなかに、その指針が示されていると思う。(かつめ)

昭和49年度 酪農学園学生・生徒募集案内

酪農学園大学

■酪農学部 酪農学科 160名 農業経済学科 100名 獣医学科 40名

	推薦入学	第一回募集	第二回募集
願書受付	12月3日～12月28日	1月10日～2月4日	2月21日～3月16日
試験日	1月15日(火)	2月11日(月)	3月21日(木)
試験場	本学・東京・京都	本学・東京・京都	本学・東京
試験科目	小論文・面接 ※出身学校長の推薦書が必要	酪農学科 獣医学科 農業経済学科 数学Ⅰ・ⅡB、英語B 理科(化学B・生物)より1科目選択 面接 英語B、現代国語(作文を含む)社会(政治・経済・日本史)より1科目選択 面接	

※入学案内・願書=送料共 200円(郵券可) 詳細は入試事務局
☎ 069-01 北海道江別市西野幌 582 TEL(江別) 6-1112

酪農学園短期大学

■募集人員 (男女共学) 酪農科 第1コース 70名 第2コース 80名

	推薦入学	第一回募集	第二回募集
願書受付	12月3日～12月28日	1月10日～2月4日	2月21日～3月16日
試験日	1月15日(火)	2月11日(月)	3月21日(木)
試験場	本学・東京・京都	本学・東京・京都	本学・東京
試験科目	小論文・面接 ※出身学校長の推薦書が必要	数学Ⅰ・ⅡB又は現代国語(作文含)より1科目選択 理科(化学B・生物)より1科目選択 面接	

※入学案内・願書=送料共 200円(郵券可) 詳細は入試事務局
☎ 069-01 北海道江別市西野幌 582 TEL(江別) 6-1112

三愛女子高等学校

■募集人員 全日制課程 普通科 女子 300名
■願書受付 昭和49年2月1日より2月26日まで
■手続 出身中学校を経由し、本校所定の願書を提出のこと。
■試験日及び選抜方法 3月1日(金) 9時より①筆記試験(国語、数学、英語) ②面接
■試験場 本校(江別市西野幌 534)にて行なう。
■合格者発表 3月19日(火)本校及び本人に通知する。
■入寮について 本校に隣接して50人収容の学寮がある。入寮希望者は出願時に申出のこと。
■入学案内 「入学案内」及び「願書」は、各中学校に送付してあります。又は返信切手を添えて、本校に申し出下さい。その他詳細は本校に問合せ下さい。

☎ 069-01 北海道江別市西野幌 534 TEL(江別) 3-3221

酪農学園機農高等学校

全寮制度による近代的酪農後継者の養成
酪農学園大学短大に推薦入学可能

■募集人員 90名(男子)
■願書受付 1月20日～2月26日
■入学試験日 3月1日(金) 東京のみ 2月27日(水)
■試験場 本校、帯広、北見、盛岡、東京
■合格者発表 3月5日
■入学手続 3月23日(土)
■受験科目 国語、数学及び面接
第2次募集 3月27日(水)本校で試験
学校案内、願書等は本校へ申込んで下さい(郵券20円同封)

☎ 069-01 北海道江別市西野幌 582 TEL(江別) 6-1115

文部省認定 通信教育 酪農学園短期大学酪農学校

通信教育で酪農近代化と経営の計数化による企業的体質の強化確立を

□新学	期	4月開講
□入	学手続	願書に入学金、授業料を添えて本校または東京事務所、分校に申込む。
□指	導	① 毎月講座と指導書、その他を送る。 ② 本校または、分校でスクーリング、質疑応答、添削指導を行なう。

※詳細は本校または東京事務所へ申込み下さい。

講座の種類

□酪農科	修業年限2年、授業料1ヶ年 10,000円(年2回分割納入可)
□同女子部	修業年限2年(授業料納入酪農科に同じ)
□農業経営科	修業年限2年(同上)
□近代酪農部	継続受講、受講料年間5,500円(月刊近代酪農誌の配本と面接指導)

☎ 069-01 北海道江別市西野幌 582 TEL 江別 6-1116
酪農学園東京事務所 東京都新宿区若葉町2の5 丸福ビルTEL東京 341-0904